

# 「ゴトロンロヨン」の 概念が日本を救う！

住民の「相互扶助」によって、  
有縁社会を再構築する

人々の孤立が大きな問題となっている「無縁社会」を、21世紀型の新しい「有縁社会」へ。そのキーワードとなるのが「ゴトロンロヨン」(GOTONG ROYONG)という概念だ。30年近くJICA(独立行政法人国際協力機構)で活動していた浅野壽夫教授は明言します。

「ゴトロンロヨンとはインドネシアに古くから伝わる相互扶助のこ

と。日本語に訳すと『一緒にモノを運んでいく』という意味です。

日本にも昔、結や講といった、地域住民が総出で助け合う組織がありました。インドネシアでは今も伝統的な社会慣習として残っています。私は、日本が失ってしまったこの相互扶助の概念が、世界で頻発する自然災害などからの復旧・復興にも役立つのではないかと考えています」

浅野教授はJICA時代、インドネシア、ボリビア、タイなどの開発途上国で多分野にわたる国際協力活動を実践してきました。「2004年12月に起きたスマトラ島沖地震による大規模な津波災害で

後、JICAから神戸学院大学の教員に転身。現在は、自然災害に見舞われ緊急援助が入った地域などどう活性化し災害に強い社会をつくり上げていくかという「地域活性化」の研究にも取り組んでいます。

## 先進国が進むべき方向を 国際協力から学ぶ

浅野教授がユニット長を務める国際教育機構「防災・社会貢献ユニット」も、大学と地域が「防災」を軸に危機管理意識を高め合うという社会貢献教育プログラム。高い防災意識を備え、温かみのある安全な社会づくりに貢献できる知識と能力を持った人材の育成を目的としています。そのため浅野教授が担当する「海外実習Ⅱ」の授業では、インドネシア・ジョグジャカルタに学生を同行。06年のジャワ島中部地震の被災地で展開されている、神戸のNGOによる復旧・復興プロジェクトに参加するというフィールドワークを実施しています。「村民と一緒に活動すること、学生たちは、日常生活のあらゆる部分で自分たち

の能力を結集して地域を再建しようとする、ボトムアップ方式といえる『ゴトロンロヨン』の力を実感しているようです」

このような海外実習やJICAなどの国際協力は、被災地や開発途上国の人々を救助・支援する活動である一方、「実は私たち日本人が忘れてしまった大切なものを思い出させてくれる重要な機会にもなっています」と浅野教授。

「今回の東日本大震災で、行政の力には限界があることを私たちは知りました。自分たちの力を前提に、外部からの補助金やボランティアなどの支援を上手に利用して復旧・復興していくことが大事だと思えます。また実際に東日本の各被災地では、そういう動きが活発化しています。みんなが力を合わせて行政を補完していくというゴトロンロヨンの『有縁社会』の考え方が、これからの私たちの進むべき方向、目指すべき新しい社会の仕組みを示唆してくれているような気がします」



浅野 壽夫  
Toshio Asano

神戸学院大学・経済学部教授  
国際教育機構 防災・社会貢献ユニット長



フィリピンでの海外実習の一コマ。世界遺産の棚田に、田植えで貢献

元気なパワーを未来のために

神戸学院大学

法学部 経済学部 経営学部 人文学部 総合リサーチセンター 栄養学部 薬学部

有瀬キャンパス 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518 Tel.078-974-1551(代)  
ポートアイランドキャンパス 〒650-8586 神戸市中央区港島1-1-3 Tel.078-974-1551(代)  
長田キャンパス(法科大学院) 〒653-0862 神戸市長田区西山町2-3-3 Tel.078-691-4888(代)

100  
KOBE GAKUIN SINCE 1912

学校法人神戸学院は  
2012年に100周年を迎えました。